

令和 2 年 5 月 29 日現在

機関番号：12601

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2017～2018

課題番号：17H06649

研究課題名（和文）働きながら認知症の人を介護する家族員における介護と仕事の両立に関する縦断的調査

研究課題名（英文）Work-life balance among family caregivers of persons with dementia: A longitudinal study

研究代表者

目 麻里子 (Sakka, Mariko)

東京大学・大学院医学系研究科（医学部）・助教

研究者番号：60804309

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,100,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、働きながら認知症をもつ人を介護する家族員に対する支援方法を導き出すことを目標に、まず日本語版の介護と仕事の両立尺度を開発した。その後、開発した尺度を用いた縦断調査を行い、働きながら認知症の人を介護する家族員の離職意思には「介護が仕事に及ぼすネガティブな影響」が関連することが示された。これらの結果から、今後は「介護が仕事に及ぼすネガティブな影響」を軽減する支援方法を検討していく必要が示唆された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究で開発した尺度は、介護離職を防ぐための方策を検討する上で有用な指標となり得る。本尺度は離職意思と関連を示したことから、介護負担の軽減のみでなく、「介護が仕事に与えるネガティブな影響」を軽減するような支援の視点が必要である可能性が新たに示唆された。この結果は、介護離職を防ぐための支援プログラムを検討する上での資料として活用することが期待される。

研究成果の概要（英文）：This study aimed to determine how support of the work-care balance affects employed family caregivers of a person with dementia. First, I developed the Japanese version of the work-care balance scale. After that, I conducted a longitudinal study using the developed scale to clarify the relationship between work-care balance and the intention to leave. The results showed that the negative effect of caregiving on work was related to the intention to leave. These results suggest that it is necessary to reduce the negative effect of caregiving on work.

研究分野：老年看護学

キーワード：家族介護者 認知症 ワーク・ライフ・バランス 介護離職

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

超高齢社会の日本において、介護離職は重要な検討課題となっている。特に、認知症をもつ人の介護は日常的に行われる身体的ケアのみでなく、行動・心理症状へのケアが必要である。認知症をもつ人への支援は社会全体で行うべきであるとされている中で、家族への負担は依然大きく、特に介護と仕事の両立が困難な集団であると考えられる。しかし、認知症をもつ人の家族介護者の介護離職を防ぎ、介護と仕事の両立のための支援方法は未だ確立されていない。

2. 研究の目的

本研究の目的は働きながら認知症をもつ人を介護する家族員に対する支援方法を導き出すことを目標に、下記の2つを目的とした。

- 1) 介護と仕事の両立指標 (Japanese Version of the Caregiving Interface Work Scale: J-CIW) を開発する
- 2) 働きながら介護する家族員の J-CIW の関連を縦断的調査で検討する

3. 研究の方法

【目的1: 尺度開発】

研究デザイン: 横断研究 (2週間後の再テスト含む)

研究対象者: 働きながら介護をしている者

尺度の概要: Caregiving interface work scale は、Netemeyer et al., (1996)の作成した、Work family conflict、Family work conflict 尺度を米国の Gordon et al.,(2012) が介護版に改定した尺度である。Care Interface work (CIW) 10項目、Work interface conflict (WIC) 10項目の2下位尺度 20項目で構成される。「1. 当てはまらない」～「5. 当てはまる」の5件法で評価する。得点が高いほど、両立が困難であることを示す。項目は、CIWは「私の介護にかかる時間によって、仕事の責任を果たすことが難しくなる」私は仕事をしながら、さんの介護の段取りや予定を立てたりする、WICは「私は職務のために、介護の予定を変えなければならない」「私はさんのお世話をしながら、仕事上の問題について考える」などがある。

尺度開発手順:

開発にあたって、ISPOR(International Society for Pharmacoeconomics and Outcomes Research)のガイドラインに従って実施した。

- 1) 介護と仕事の両立尺度を開発した米国の原著者から承諾を得た上で、複数の研究者で尺度の順翻訳・逆翻訳を行い暫定版の尺度を作成
- 2) 介護と仕事の両立をしている人に認知的インタビューを行い、尺度の表面妥当性を確認
- 3) 再度研究者間で内容を吟味し、J-CIW 日本語版尺度を作成
- 3) 介護と仕事の両立をしている人を対象に Web 上で再テストを含むアンケート調査を実施
- 4) 収集したデータの統計解析を行い、尺度の信頼性・妥当性を確認

調査項目: J-CIW (本研究で開発した尺度)、仕事のパフォーマンス (WHO-HPQ 日本語版、宮木ら., 2013)、離職意思 (Geurts et al.,1998)、基本的属性 (性別、年齢、勤務形態、労働時間など)

分析方法: COSMIN (Consensus-based Standards for the selection of health Measurement Instruments) に従って分析を行った。

- 1) 因子妥当性、構造妥当性の検討のため、J-CIW 尺度の探索的因子分析と構造方程式モデリングを行い、因子構造を確認した。以降、ここで確定した因子構造に基づいて実施した。
- 2) J-CIW 尺度の特徴を把握するため、下位尺度 (CIW, WIC) 得点の平均値、標準偏差 (SD)、最大値、最小値、天井効果、床効果を算出した。
- 3) 実行可能性の検討のため、質問紙の項目毎の欠損率に差があるかどうかを Cochran の Q 検定を実施した。
- 4) 内的一貫性の検討のため、J-CIW 尺度の下位尺度得点の Cronbach's α を算出した。また、再テスト信頼性は、初回・第2回調査における J-CIW 尺度の下位尺度得点の重みづけ 係数を算出した。
- 5) 収束・弁別妥当性の検討のため、多特性分析を実施した。本研究では、各項目について、それが属する下位尺度得点との相関が他の下位尺度得点との相関より高いと仮定した。各項目とそれが属する下位尺度得点および他の下位尺度得点における Spearman の順位相関係数を算出し、その相関係数を比較した。
- 6) 開発した尺度と離職意思との関連を検討するため、重回帰分析を行った。従属変数は離職意思とし、独立変数にベースラインの性別、介護時間、労働時間、仕事のパフォーマンス、介護が仕事に与えるネガティブな影響、心理ストレス反応とした。独立変数の選択は、従属変数との2変量解析で有意であった変数と先行研究を参考に選択した。

【目的2：J-CIWの関連要因検討】

研究デザイン：1年間の縦断研究

研究対象者：働きながら介護をしている者

研究手順：目的1で回答した対象者に回答終了から1年後に調査依頼をし、同意が得られた者に回答を依頼した

調査項目：J-CIW（目的1で開発した尺度）、仕事のパフォーマンス（WHO-HPQ 日本語版、宮木ら., 2013）、上司からのサポート・同僚からのサポート（Inoue, et al., 2012）、K6（Furukawa et al., 2008）、基本属性（性別、年齢、労働時間、介護時間など）

分析方法：記述統計を算出後、Time2のJ-CIWに関連する要因を検討するため、Time1のJ-CIWとTime1の変数についてSpearmanの順位相関係数を算出した。

なお、研究の実施にあたり東京大学大学院医学系研究科・医学部倫理委員会の承認を得た。

4. 研究成果

【目的1】

1. 対象者の属性

調査対象者は116名でうち76名が再テストに回答した。平均年齢（±標準偏差）は50.29（7.6）歳、男性が74名（63.8%）であった。週当たりの労働時間は41.6（19.3）、介護時間は12.08（18.5）であった。

2. 因子妥当性、構造妥当性

探索的因子分析の結果、4因子構造が確認された。構造妥当性に関して、下位尺度による原版のモデルと因子分析により得られたモデルについて、モデル適合度を算出した（表1）。適合度指標から原版のモデルが妥当であると考え、以下の分析に用いた。

表1. 構造妥当性の検討

	χ^2	<i>p</i>	GFI	AGFI	RMSEA	CFI	AIC
4因子モデル ^a	343.38	< .001	0.77	0.7	0.1	0.92	431.67
2因子モデル ^b	270.36	< .001	0.83	0.77	0.08	0.95	378.36

注. a: 探索的因子分析によって得られたモデル; b: 原版のモデル; GFI = Goodness of fit index; AGFI = Adjusted goodness of fit index; RMSEA = Root mean square error of approximation; CFI = comparative fit index; AIC = Akaike's Information Criterion.

3. 尺度記述統計

J-CIW尺度について、CIWで平均点が26.54（9.55）、得点範囲は10-50であった。WICで平均点が28.04（8.7）、得点範囲は10 - 47であった。床効果はWICで8.0%、CIWで7.1%であった。天井効果はWICで0.0%、CIWで0.9%であった。

4. 実行可能性

各項目の欠損値についてCochranのQ検定を行ったところ、*p* = .78であった。

5. 信頼性

内的一貫性について、Cronbach's α はWICで α = 0.91、CIWで α = 0.94であった。再テスト信頼性について、重みづけ係数はWICで0.54、CIWで0.50であった。

6. 妥当性

収束妥当性・弁別妥当性について、J-CIW尺度項目と各下位尺度間の相関係数を算出した。尺度化成功率はWIC、CIWともに100%であった（表2）。

表2. 収束・弁別妥当性の検討

	収束妥当性	弁別妥当性	尺度化成功率
CIW	.644 — .903	.575 — .872	100%
WIC	.593 — .842	.514 — .748	100%

注. Spearmanの順位相関係数を算出; WIC = work interfering with caregiving; CIW = caregiving interfering with work.

7. 離職意思に関連する要因

離職意思に関連する要因を検討した重回帰分析の結果を示す(表3)。仕事のパフォーマンスが低いこと($\beta = -.425, p = .001$)介護が仕事に及ぼすネガティブな影響が高いこと($\beta = .271, p = .040$)が離職意思と関連を示した。仕事が介護に及ぼすネガティブな影響については、二変量解析・重回帰分析ともに離職意思と有意な関連を認めなかった。また、有意ではないが、認知症の人の介護者は離職意思が高い傾向が見られた。

表3. 離職意思に関連する要因の検討

		p
年齢	0.003	0.976
労働時間	0.047	0.666
介護時間	-0.145	0.192
認知症の人を介護	0.201	0.068
仕事のパフォーマンス	-0.425	0.001
介護が仕事に与えるネガティブな影響	0.271	0.04

注. 重回帰分析で算出; β : 標準化回帰係数

8. まとめ

これらの結果から、信頼性・妥当性の検討された J-CIW 尺度が完成した。この開発した尺度は、介護と仕事の両立を検討する上で有用な指標となり得ると考える。

【目的 2: 関連要因の検討】

1. 対象者の属性

調査対象者は 65 名であった。平均年齢 (\pm 標準偏差) は 50.20 (7.7) 歳、男性が 40 名 (61.5%) であった。週当たりの労働時間は 51.3 (19.2)、介護時間は 11.82 (18.3) であった。認知症の人の介護者は 22 名 (33.8%) であった。

2. J-CIW に関連する要因

J-CIW の下位尺度のうち、離職意思と関連を認めた CIW に着目し、関連する要因を検討した。

その結果、認知症の人の介護者であること ($r = .306, p = .020$) 同僚からのサポートが少ないこと ($r = .246, p = .045$) が 1 年後の CIW と有意な関連を示した。

3. まとめ

本研究の結果により、認知症の人の介護者への支援の必要性が示唆された。また、同僚からのサポートが CIW を軽減することから、介護にやさしい職場風土の構築が求められる可能性が示唆された。

【今後の課題】

縦断調査はサンプルサイズが小さいため、多変量解析は行えなかった。今後、大規模サンプルで J-CIW に影響を与える要因を検討することが望まれる。また、CIW を低下させるサポートが具体的にどのようなものなのか、今後は定性的調査を行い検討していく必要がある。

【引用文献】

- Geurts, S., Schaufeli, W., and De Jonge, J. (1998). Burnout and intention to leave among mental health-care professionals: A social psychological approach. *J. Soc. Clin. Psychol.* 17, 341-62. doi: 10.1521/jscp.1998.17.3.341.
- Mokkink LB, Terwee CB, Patrick DL, Alonso J, Stratford PW, Knol DL, et al. International consensus on taxonomy, terminology, and definitions of measurement properties: results of the COSMIN study. *Journal of Clinical Epidemiology* 2010; 63: 737-745. <https://doi.org/10.1016/j.jclinepi.2010.02.006>
- Inoue, A., Kawakami, N., Shimomitsu, T., Tsutsumi, A., Haratani, T., Yoshikawa, T., et al. (2014). Development of a short version of the new brief job stress questionnaire. *Ind. Health.* 52, 535-540. doi:10.2486/indhealth.2014-0114
- Furukawa, T.A., Kawakami, N., Saitoh, M., Ono, Y., Nakane, Y., Nakamura, Y., et al. (2008). The performance of the Japanese version of the K6 and K10 in the World Mental Health Survey Japan. *Int. J. Methods Psychiatr. Res.* 17, 152-8. doi: 10.1002/mpr.257

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 1件／うち国際共著 0件／うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 Sakka M, Goto J, Kita S, Sato I, Soejima T, Kamibeppu K.	4. 巻 19(1)
2. 論文標題 Associations among behavioral and psychological symptoms of dementia, care burden, and family-to-work conflict of employed family caregivers.	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Geriatrics & Gerontology International	6. 最初と最後の頁 51-55
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） doi: 10.1111/ggi.13556.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計6件（うち招待講演 0件／うち国際学会 3件）

1. 発表者名 Mariko Sakka, Sachiko Kita, Iori Sato, Takafumi Soejima, Tokita Masahir, Eguchi Hisashi, Noriko Yamamoto-Mitani, Akihito Shimazu, Kiyoko Kamibeppu
2. 発表標題 The Validity and Reliability of the Japanese Version of the Caregiving/Work Conflict Scale among Employed Japanese Family Caregivers.
3. 学会等名 11th International Association of Gerontology and Geriatrics Asia/Oceania Regional Congress（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 目麻里子, 山本則子, 後藤純, 佐藤伊織, 上別府圭子.
2. 発表標題 働きながら認知症の人を介護する家族員のFamily work conflict デイサービスの利用による影響
3. 学会等名 第24回日本老年看護学会学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 目麻里子, 上別府圭子
2. 発表標題 介護役割を担う労働者の離職意思に関連する要因の検討
3. 学会等名 第25回日本家族看護学会学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 目麻里子, 佐藤伊織, 副島堯史, キタ幸子, 上別府圭子
2. 発表標題 認知症の人を介護する就労中の家族介護者の心理的要因が介護保険サービスの利用内容の選択に与える影響
3. 学会等名 日本家族看護学会学術集会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Mariko Sakka, Jun Goto, Sachiko Kita, Iori Sato, Takafumi Soejima, Kiyoko Kamibeppu
2. 発表標題 Associations among behavioral and psychological symptoms of dementia, care burden, and family-to-work conflict of employed family caregivers
3. 学会等名 East Asian Forum of Nursing Scholars (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Mariko Sakka, Jun Goto, Shohei Ito, Sachiko Kita, Iori Sato, Takafumi Soejima, Kiyoko Kamibeppu
2. 発表標題 The relationship between the use of long-term care insurance services (LTCI) and family-to-work conflict (FWC) among employed family caregivers of persons with dementia (PWD)
3. 学会等名 Hong Kong International Nursing Forum (国際学会)
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考